Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan
京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより
かがやき
Vol.84
2025
1月

令和６年度 第９回共同機構研修会　　令和６年１１月１４日(木)

乳幼児期の非認知能力～自制心（がまんする力）を中心に～

講師 森口 佑介 京都大学大学院准教授

「乳幼児期の非認知能力」、中でも私の専門のがまんする力、自制心（＝実行機能）についてお話します。ここでいう「がまん」とは、大事な目標、将来の利益のために、自分の行動を主体的にコントロールする力のことで、人から押し付けられる、根性論で語られる「がまん」ではありません。

では非認知能力とは何でしょう。非認知を理解するには、まず認知を理解しなければなりません。ここでいう認知は、心理学での定義とは異なり、IQ テスト等で測られる知能や能力のことを指しています。IQ が大事だということは、知られています。しかし、それだけでは人間を捉えられません。気持ちを表現したり、他人の気持ちを思いやったりするようなことも非常に大事だということで、この IQ へのアンチテーゼとして取り上げられたのが、非認知能力と言えるでしょう。非認知能力という時、人によっては、意欲、忍耐力、自制心、自尊感情、コミュニケーション力という風に、様々なものが含まれています。

非認知能力の中でも、自制心は、人間にとって必要で、基本的な能力だと考えられ、研究を通して多くのエビデンスも示されています。自制心には、大きく2つの側面（感情面と思考面）があり、欲求のコントロールが感情面の自制心であるのに対し、思考面の自制心は無意識に行っている習慣や癖を意識してコントロールする力で、学力にも関わっています。ニュージーランドの研究では、自制心が高い子どもは将来年収が高く、健康状態も良好で、自制心が経済面と健康面にかなりの影響を及ぼすということが見て取れます。また、自制心は、教育や支援で発達する可能性があると言われています。さらに自制心は、幼児期に大きく発達して、小学校くらいからも緩やかな発達が続いていくということから、みなさんが対象にしておられる幼児期が大事な時期なのだということを改めてお伝えしたいと思います。

実は、大人の個人差は、8 割～9 割は遺伝的な要因で決まっていると言われています。それに対して、子どもは環境の要因（特に、家庭環境）に影響を受けやすく、環境要因が大事だということが分かっています。そこで、保護者の方に伝えていただきたいのは、睡眠（夜、寝る時間）が大事だということです。それは、傷ついた脳のニューロン等の修復、記憶の定着等、脳にとって大事な様々な作用が、寝ている間に行われるからです。十分な睡眠を取るようにして頂きたいということです。

東京大学の研究では、幼稚園、保育園に行く子、行かない子を比較すると、行く子の方が多動症や攻撃性が低く、子どもたちの発達に非常にプラスだと分析されています。園の先生方は、専門家で、子どものことをよく知っておられ、子どもにとっての安心・安全の対象になり得ます。特に、保護者との関係がうまくいってないお子さんに対して安全基地になること、それは容易ではないのですが、それによってかなり子どもたちの発達が支えられるということが、たくさんのデータにより分かっています。なかなか養育がうまくいかない、子育てがうまくいかない保護者の家庭こそ、幼児教育や保育の影響力が大きいということが示されています。

自制心は、幼児期に発達し、その後の人生にとって影響がある大事な力だということと、その力を育むには環境が大きく影響するということ、特に家庭環境の厳しい子どもたちにとっては、園の先生方との信頼関係によって、この自制心が育まれる可能性が大きいということをお伝えしたいと思います。

＊上記の要約は、講義をもとに編集したものです。

DVD貸出中

乾隆幼稚園の
先生の実践発表

京都市総合教育センター主催・こどもみらい館協力
幼児教育と小学校教育をつなぐ幼小接続講座②

オンライン
グループ協議

12月6日(金)に、幼保小の先生方約 80 名が参加し、幼児教育と小学校教育をつなぐ幼小接続講座が行われました。同一小学校区内にある乾隆小学校と乾隆幼稚園の架け橋プログラムの取組を「幼稚園と小学校で“ワクワク”がつながる互恵性のある子ども同士の交流」と題して実践発表があり、その後、グループに分かれて、幼保小の先生方で自分の園(所)や学校ではどんなことができるかな・・・と話し合いました。

実践発表から乾隆小学校・乾隆幼稚園での具体的な取組を御紹介します。

出前授業
幼稚園からは、小学校の入学時期に毎週、幼稚園の先生が体を動かしながらほっこりできる時間を提案

公開保育
幼稚園の保育を小学校の先生に公開。小学校の先生のアンケートから保育を見直すきっかけにも

図画工作科「カラフル色水」の授業での交流
子どもが“ワクワク”する環境構成や援助の大切さを学び合う

生活科「あきといっしょに」の授業での交流
先生たちがアイデアを出し合い保育・授業を共に作る

生活科「なつだとびだそう」の授業
幼稚園の砂場で交流
幼稚園の砂場で、５歳児と１年生一人一人がやりたいことを思いっきり楽しみ、お互いに刺激し合う

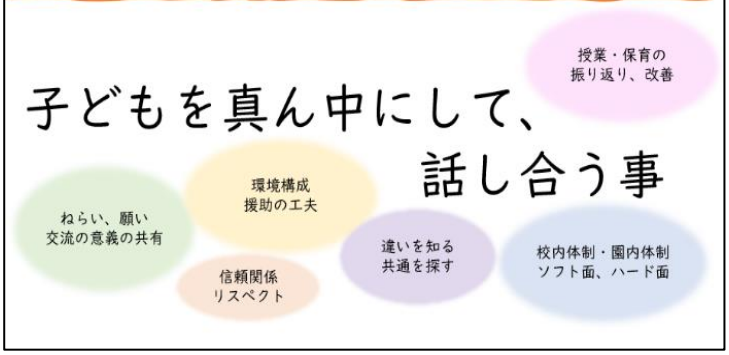
生活科「もうすぐみんな2年生」での交流
５歳児　小学校への不安や緊張が期待や楽しみにつながる
１年生　自分の成長に気づき誇りと自信にあふれる

実践発表のテーマにある「幼稚園と小学校で“ワクワク”がつながる」ことについては、“ワクワク”や“つながる”を下記のようにとらえ、「ワクワクがつながれば交流は互恵性の宝庫になる」「大切なことは子どもを真ん中にして話し合うこと」とお話しいただきました。子どもたちの学びや育ちをつなげるために、幼保小が共に協力し合い、子どもを真ん中にして話し合うことから始めてみてはいかがでしょう。

☆“ワクワク”がつながる

“ワクワク”
・心が動き“やりたい”があふれている
・子どもたちが、主体的に活動に向かう気持ち
　つながる
・幼小の子ども・教師が、“ワクワク”を共有・共感
　＝その場（交流）で気持ちや思いがつながる
・交流で経験したことが次の“ワクワク”を生み出す
　＝未来につながる　明日からの保育や授業につながる
“ワクワク”がつながれば、交流は互恵性の宝庫！

☆結局大切な事は…



幼稚園・保育園(所)から研修に参加した先生の声

出前授業や合同授業のことが分かったので参考になった

違う園の取組を知ることができ、素敵な学びになりました

具体的なことが聞けて、実践できることを探せると感じた

年間を通しての計画、定期的な話し合いなどの必要性を感じた

「やれることからやってみよう！！と一歩踏み出すきっかけになりました

「無理なく続けていける方法を考え、実践、反省を繰り返し形をつくっていく必要があると思った

フィールド研修（保育現場から学ぶ研修）

昨年度に引き続き、今年度も「フィールド研修」を実施しました。この研修は、他園（所）の保育を見学する中で、参加者が自己課題の解決に向けてのヒントを得たり、学びを深めたりする研修です。他園（所）を見学することで、自園の「あたりまえ」に新たな風を取り込み、共同機構として垣根を越えて互いの良いところを学び合う、そんな研修になればと願い実施しております。

御協力いただいた4つの園（所）、そして御参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。

周山保育所
９月４日実施

みつば幼稚園
９月１９日実施

京極幼稚園
１１月８日実施

壬生保育所
１２月１８日実施

異年齢のかかわりが生まれる環境構成や深めていくことができるような保育者の援助について学びたいです。

～こんな思いで参加しました～

発達に適した遊びや内容、活動の取り組み方や進め方を知りたいです。また、生活の流れや保育士のかかわり方、育児担当制の取り入れ方を知りたいです。

他園では保育室の環境づくりでどのような工夫をされているかを知り、今後の保育環境に取り入れて子ども達がより楽しく過ごせるようにしたいです。

～こんなことを学びたいな～

自ら選んでする活動・クラス全体で取り組む活動をバランスよく取り入れ、子どもたちの発達を促すために、具体的にどのような活動やかかわりをされているのか非常に興味があったので、この貴重な機会に学びたいです。

～他園からの学びを実践へ～

事後アンケートより

- 主体的に自分のしたい遊びを選び取り、保育士や友だちとかかわり合いながら心ゆくまで遊びこんでいることが子どもたちの表情からも伝わってきました。先生方も子どもたちの遊びに寄り添い、共感しておられる姿が印象的でした。今、子どもたちがどんなことに興味があってそれをどう広げていくのか、やりたいことに柔軟に対応していける環境づくりはどんなものかを自園で話し合い、保育を見直しました。

- 子どもが“伸び伸び”と、自ら遊びを選べる環境が充実していることで、今回の研修で見た、子どもたちの生き生きとした姿や、安定した情緒になっていくと感じたので、ゆるやかで家庭的な保育や環境づくりを改めて考えるきっかけにもなりました。
- 遊びにねらいをもつ、年令ごとのねらいもしっかりもつということが大切だと改めて感じました。
- 普段から異年齢で過ごしている子どもたちは年上の子に憧れをもってよく見ていて、年下の子が困っている時に自然に手を差し伸べる関係性が見られ、積み重ねる大切さを改めて実感しました。
- 子どもが主体的に遊びを広げ、進めていく姿が見られ、その中で、先生方が子どもたちの“やってみたい”を一つ一つ丁寧に受けとめる姿や、“思ったことを言ってもいいんだよ”という雰囲気をつくっている姿が見られました。保育の中で大切なのは、私たち保育者が、その事象に対してどう思うかもそうですが、それ以上に、子どもたちがどう感じているのかということが大事だと、改めて認識できました。自分自身も、子どもと関わっていく中で、意見や気持ちを一つ一つ受けとめていきたいと思いました。

- 「言葉を手渡す」ということを学び、そうすることで、一人一人の子どもたちにより丁寧にかかわったり、向き合っていけたりすると思うので、改善していけるように意識したいです。

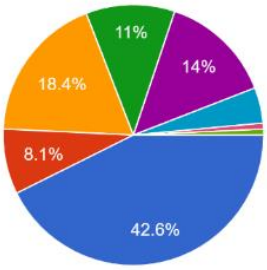
フィールド園（所）にと手を挙げてくださった４園（所）の心意気に敬意を払い、心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

アンケート

ご協力ありがとうございました。

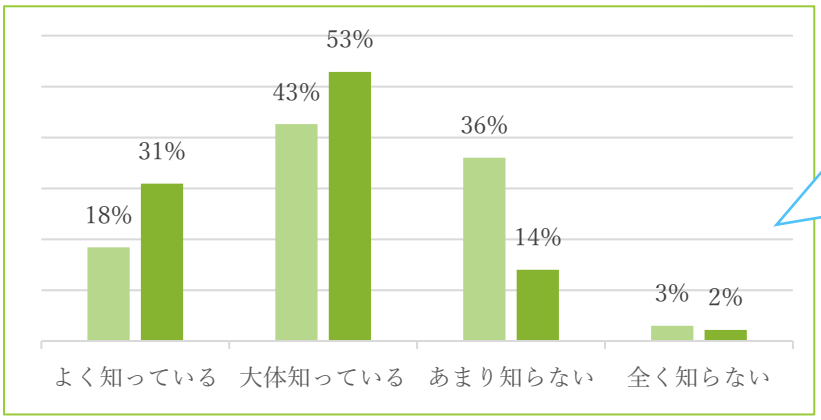
令和５年度に引きつづき、保幼小連携・接続に関してのアンケートを実施し、１３６件の回答が寄せられました。それぞれの園の実態やお考えなど、皆様から頂いた御意見を生かしながら研究・研修事業を進めていきたいと思います。内容の一部を紹介します。

Q.あなたの所属はどちらですか



民営保育園(所)	42.6%
市営保育所	8.1%
私立幼稚園	18.4%
国公立幼稚園	11.0%
認定こども園(保)	14.0%
認定こども園(幼)	4.4%
その他	1.4%

Q. 京都市が「幼保小の架け橋プログラム」調査研究事業に取り組んでいるのを知っていますか



「よく知っている」「大体知っている」を合わせて、令和５年度 64%➡令和６年度 84%へ増加。認知は進んでいると思われる。

Q. こどもみらい館に何を期待しますか

(R5 年度)		(R6 年度)
1. 研修	➡	研修
2. つなぎ役	➡	情報発信
3. 情報発信	➡	交流の場の提供

令和５年度と比較すると、「研修」が最も多いのは変わらないが、「情報発信」の次に「交流の場の提供」が続く。保幼小をつなぐ役割として、特に「交流の場の提供」が期待されていると思われる。

Q. 保幼小連携・接続の意義

「子どもの安心感」「個々に応じた配慮や支援の継続」「保護者の安心感」を選ぶ園(所)が多かった。令和５年度と比較すると「子どもの安心感」「保護者の安心感」が特に増加している。

Q. どのような取組が必要か

令和５年度と同様、「子どもの姿を通して互いを知る（参観等）」「子どもが学校を訪れる」「書類等による個々の情報共有(就学支援シート等)」の項目が多く選ばれた。

いただきました様々な御意見は、今後の取組に生かしていきたいと思います。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より

「はぐくみ文化」を未来の京都へ

この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！

発行日　令和7年1月 29 日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel ： (075)254-5001　Fax ： (075)212-9909
URL ： https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/